

Ⅲ 参 考 資 料

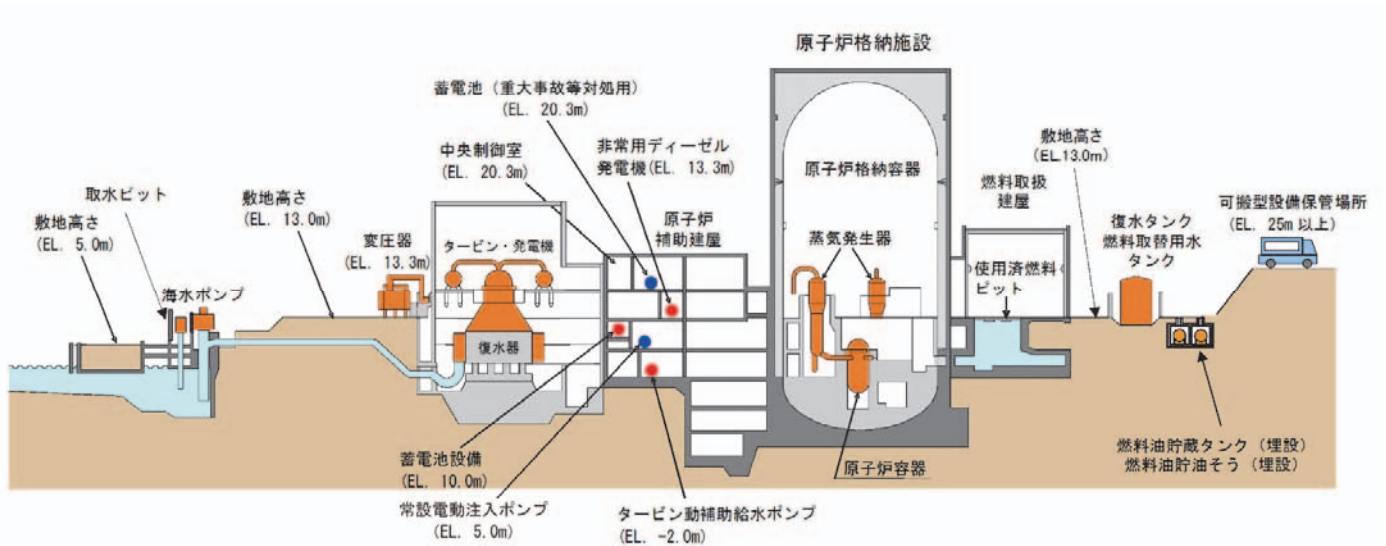
Ⅲ - 1 川内原子力発電所位置図



< 発電所全体配置図 >



< 発電所断面図 >



Ⅲ - 2 川内原子力発電所の概要

川内原子力発電所は、1号機が昭和59年に全国で27番目、2号機が昭和60年に全国で32番目の商業用原子炉として営業運転を開始している。

項目		ユニット	
		1号機	2号機
所在地		薩摩川内市久見崎町字片平山1765番地3	
敷地面積		約145万m ² （埋立面積約10万m ² を含む）	
電気出力		89万kW	89万kW
原子炉	型式	加圧水型軽水炉（PWR）	
	熱出力	266万kW	266万kW
燃料	種別	低濃縮（約4.1%，約4.8%）二酸化ウラン	
	装荷量	約74トン （燃料集合体157体）	約74トン （燃料集合体157体）
冷却海水量		約64m ³ /s	約64m ³ /s
主要経緯	川内市議会・誘致決議	昭和39年12月15日	—
	建設計画発表	昭和45年4月21日	昭和52年3月29日
	電源開発調整審議会	昭和51年3月12日 （第68回）	昭和53年7月14日 （第75回）
	原子炉設置許可	昭和52年12月17日	昭和55年12月22日
	着工（基礎掘削開始）	昭和54年1月24日	昭和56年5月7日
	安全協定調印	昭和57年6月12日	
	初臨界	昭和58年8月25日	昭和60年3月18日
	初送電	昭和58年9月16日	昭和60年4月5日
	営業運転開始	昭和59年7月4日	昭和60年11月28日
建設費		約2,800億円	約2,300億円

Ⅲ - 3 原子力防災訓練当日のコメント（ぶらさがり取材）

1 知事

今回の訓練では、3年ぶりに住民の方々に参加いただいた訓練となりましたが、実際に発災したときに、住民の方が手順を理解しておくことが大事だと思うので、住民に参加いただくことができたのはよかったと考えています。

基本的な手順は、繰り返し行っていただきながら、訓練期間であったり、場所であったり、様々な想定されることを組み合わせながらやっていただき、住民の皆さんに理解していただくことが必要だと思います。

また、今回、原子力防災アプリを活用しましたが、原子力防災アプリがどんどん普及して軸になるようにしていきたいと考えています。

普及にあたっては、様々な媒体を使って広げていきたいと思っていますが、訓練に参加していただくことで、普及につながる面もあります。こういった訓練で実際に使っていただきながら、御理解いただき、普及に努めていきたいと考えています。

一方で、スマートフォンが使えない方がいらっしゃるということも前提にした対応をちゃんとやっていく必要があります。アプリだけで全て解決するということではなくて、スマートフォンが使えない方をフォローするための取組や、実際の災害現場でスマートフォンを持ってこなかったという方、あるいはどこかで紛失してしまった、電池が切れてしまった等、様々なケースがあるので、そういうことを想定しながらアプリ以外の手続きも並行して、しっかり対応していく必要があると考えております。